

ひかり

一般社団法人

光陽福祉会

発行日 平成 26年6月 第47号

あきらめない強さ

古田 真理華

親が子を思う気もちって複雑ですよ。幸せであって欲しいと願いながら、一つ一つ願いが重なり広がっていく。しかし根底には限りない愛情がある。その愛情を伝える方法が一人一人(家庭で)違い、その中で育てていることを面談の中で知る家庭の様子から感じています。どの保護者も頑張っている。置かれている現状の中「子どもの幸せを願って」育てていると感じています。

先日、会長の話を聞く機会がありました。「親が我慢してあきらめたら、子どもはずっとあきらめていかなければいけない」久しぶりに心に響いた言葉でした。久しぶり…とはきっと私の心の持ちようなのかも知れません。どんな角度から子どもを育てて(支援して)いくのか?を問われた様な気がしたのです。

福祉職に携わる人として、また一人の親として、気持ちはある。でも行動は起こさない。誰かがやってくれるから今は待っている。今の社会にはないものだからあきらめる。こんな気持ちを持った事がある私にはかなり衝撃的な言葉でした。「自分が我慢してあきらめたら 子どもはずっとあきらめるしかない」確かにその通りだと感じたのです。できない事の言い分けや、文句・クレームを言えと言っているのではない。子どもが生きていく道を切り開いていく。生(行)きやすい道を作らしていく事が親の仕事なんだと感じたのです。

「狭い道なら広げられる知恵を持つ 暗い道なら光を照らす知恵を持つ 大きな障害物があるなら取り除く知恵を持つ 道が途絶えているのなら道を作る知恵を持つ」先ずは一步前へ行動を起こす。自分の愛する子の為に先ずは一步前に踏み出す勇氣、そしてあきらめない強さを併せ持つことを心の中で唱えています。

知恵と勇氣は一人では出せない事もある。そんな時は周りにいる人と共にでいいのではないのでしょうか?子にかかわる全ての人と一緒に考えていける環境。その中で「あきらめない強さ」を持って一步前に踏み出していきたいと思えます。そうする事で受け止めてくれる相手が変わるのです。地域・行政・社会を動かせる小さなきっかけを作っていけるまで、決してあきらめない強さを持ちたいと思えます。

きっずサポートはぐくみ

元気いっぱい朝の歌

大島 由美子

6月＝梅雨&初夏の季節になりました。

と、いう事で今年もまた水遊びがスタート！します。昨年を思い起こしてしてみると、お着替えすることが嫌で大泣き、水着の感触が嫌で大泣き…とスタート時、とても賑やかだった様子を思い出します。水遊びには、トイレトレーニング、衣類の着脱、友達と行動する意識を持つ事…と子ども達が自分で挑戦するポイントも付属されています。挑戦する機会＝成長できる時でもあります。今年も一夏越えた時に、子ども達の中で何か一つ成長・変化が見られるように支援を心掛けていきたいなと思います。

(朝の歌：せんせいおはよう♪)

毎回、朝の会のはじまりに歌うのが「せんせいおはよう」の歌。

ここで活躍しているのが・・・壁面の動植物たち。

子ども達にリクエストを聞いてその日選ばれた生き物が歌の中に登場します。

先生おはようの替え歌バージョンです。

例) ちょうちょ＝せんせいおはよう みなさんおはよう

ちょうちょも ひらひら と一んでいきます♪

お馬さん＝おうまも パッカパッカ かけっこします♪ 等

2014年になった時におうまさん特別バージョンとして歌の中に入れた事から、いつの間にか壁面上で存在する他の生き物達も～となっていきました。今では、次は朝の歌の時間だ！と察知すると指差しや表情で「これにして」と笑顔で教えてくれたり、「うさぎさん」「かえる」と元気な声があがってくるようになりました。朝の会の定番となった歌の時間。子ども達はこの時間が大好き♡です。

その様な子ども達の様子から

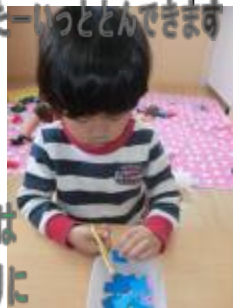
- ・自分の要求を言葉や仕草で伝えようとする自発的な姿が見られる。
- ・視覚的にはたらきかけることができ“注目する(気持ちを向ける)”事ができる。
- ・1番が終わり2番に移って行く時、指定の生き物が変わる事で(職員が壁面の前に立って指差しで次の主役を伝えている)その方向を見る・切り替えをするといった変換・反応能力の部分にもはたらきかけている。
- ・生き物そのものに興味を持ち、特徴を知る・感じる事ができる＝模倣の動作にも挑戦

以上のような壁面を活用する事での利点が見えてきました。

(マイナス面として…テンションが高くなりすぎてしまう場合もありますが、その様な時はクールダウンするまで静かにして落ち着くのを待っています。)

子ども達の楽しみにしている朝の歌。毎月少しずつ変化していく壁面を活用しながら、しばらくは続けていきたいなと思います。

ハサミでチョッキン!!大好きです
進んでいても切りたーいっとんできます



切ったものは
壁面の壁のぼりに



いももち
作り

平べったくね〜れ!!

サポートセンターつぼみ

やってみる！！

中島 由貴

やってみよう！！そんな気持ちが合言葉になっています。子どもたちも“今日の取り組み”はなにかな♪のわくわく感を持ってつぼみに来てくれています。でもでも実際はやってみるってなかなか勇気があること。言葉通り、初めてのことだったり、今の力からのジャンプアップの時だったり・・・ですよね。だから挑戦の気持ちを込めての言葉なんだと思います。子どもたちの力を引き出すための「やってみよう」が毎日のプログラムとなっています。

5月のチャレンジ第一弾として、コメダコーヒーに行ってきました！行く前にはメニューを見てイメージトレーニング。模擬喫茶をして、注文、食べること、支払いまでの流れを経験して、いざお店へ……。行ってみると、これと選ぶことができる子。迷って迷って選ぶ子。さまざまでした。しかしこの迷う時間も外食の醍醐味★何が食べたいかな～、メニューを見て写真を見て、こんな感じかな？と味を想像して、その味を口の中に広げて、今の自分の「食べたい」の気持ちに合わせて考える。そして“選ぶ”。自己選択ですよね。実際に運ばれてくると、おいしーい！！大満足の子もいれば・・・これは思ったのと違うと言わんばかりの子もいました(笑)あれもこれも大事な経験。きっとこれじゃないと思ったことは、次の時においしそうに見えた物を選ぶという選択肢が増えたのです。



今回の第一弾を終了して感じたことは・・・これから挑戦魂を持っていたいということです。それが経験、体験となります。今しかできないことを今やるという経験は何よりも財産になっていきますよね。そのためには日々のこつこつと取り組む療育の力が必要だと思いました。今回、お店の方もあたたかく迎えてくださいました。地域で生活し、地域で暮らしていくからこそ、こうやってあたたかく迎えてくださる・子どもたちを可愛いと感じてくださる人を一人でも増やしていくことも



私達職員の役目だと思っています。思いは盛りだくさんの職員、行動力は山盛りの子どもたちです。6月もそれぞれに新たな取り組みがはじまります。楽しみとわくわくと、積み重ねた自信を持っていきましょうね。





サポートセンターつぼみ



つらい時は そっと 後ろを見てごらん

吉田 奈央

～オレ達がうなづいてあげるから (ケツメイシ『仲間』より)～

3グループの体幹訓練の中で取り組んでいるソーラン節。練習の日々が続いています。前後左右への重心移動やしなやかな動きは、身体の使い方が不器用な子供達にとって、とても難しい。しかし、両脚をしっかりと開いて膝を曲げ、腰を落とし、全身を使って踊る姿は迫力があり、最高にかっこいいです！

皆のやる気も高まってきた今日この頃。ある日の練習ではお互いが踊っている姿を見て、誰の踊りが上手だったかを言い合いました。

「〇〇君上手！」

「〇〇さんうまかった！」

と褒められ、皆は照れたり喜んだり。

その中で、後ろの方で踊っていたA君の名前だけは呼ばれませんでした。皆からは見えにくい位置でした。

A君は前回、皆に比べ練習が遅れていた為、上手に踊れない事が悔しくて、一度はソーランから遠ざかろうとしましたが、自分に厳しく真面目で、頑張り屋な性格なので、努力に努力を重ね、今では私もお手本にしたいくらいに上手です。

自分の名前が呼ばれなかったA君の目には涙が滲んでいました。

ここで私が、「A君上手だったよ」と言っても良いのか悩みました。

私の目から見ても、お世辞抜きでA君の踊りは素晴らしかった。自信を持って褒める事ができる。でも、このタイミングで褒められてもA君には響かないんじゃないか。彼のプライドを傷付けてしまうような気がしました。

そんな事を頭の中でグルグルと考えていた時、「ハイ！」と手を挙げた男の子がいました。ちよっぴりお調子者でムードメーカーなB君でした。B君の手は真っすぐ挙がっていました。「僕は、A君が上手だったと思います。」

すごく素敵でした…。もしかしたらB君の位置からもA君は見えなかったかもしれない。それでも彼はA君の涙と、涙の理由に気が付き、そっと引き上げてくれました。見てる人、わかってる人はちゃんというよ。同じ言葉でも、「先生」から言われるのと「仲間」から言われるのでは、こんなにも違うんですね。

～忘れるな 俺ら友でありライバル 薄っぺらな関係ではないはず (ケツメイシ『仲間』より)～

私は、ソーラン節の音楽が流れている間は、「先生」としてではなく、チームの一員として、「仲間」として、全力で皆と一緒に踊るように決めています。皆の真剣な表情、ひたむきさが眩しく胸がいっぱいです。揃ったかけ声が響く瞬間は圧巻ですよ。

では、6月1日の発表の成功を願って…

「構え！！」

「ハッ！！！」



第2サポートセンターつぼみ

今 必要な事

石野 恵

はやいもので第2サポートセンターつぼみが開所し、2年目を迎えました。進学・進級し、新しい環境に少しずつ慣れてきた頃だと思えます。しかし、学校では球技大会、運動会、修学旅行・野外学習等と行事が盛りたくさんの時期ですね。学校へお迎えに行くと、バスの中で「組み立て体操の練習をしたよ。」「大縄やって疲れた」「もうすぐ修学旅行だよ。〇〇へ行くよ」等々、楽しそうに話をしてくれ、話が尽きることなく到着します。送迎のバスの中では教室では見せない子どもの姿があり、その時間も職員との大切な時間となっています。

さて、4月から新しく活動を増やし毎回子どもたちに取り組んでもらっていることがあります。以前はおやつが終わると、自分が使用したお皿・コップを自分で洗う。そして自分の使った椅子を片付けるという形をとっていました。

今回、その活動を役割分担し担当を決めました。

- ① おやつを準備する人(食べる時の挨拶も含む)
- ② お茶を入れ運ぶ人(総合学習での学習の練習をふまえ)
- ③ コップ・お皿を洗う人
- ④ 洗ったものを拭く人
- ⑤ 台拭きをする人
- ⑥ おやつ後にフロアのモップかけをする人
- ⑦ 部屋の掃除機をかける人

等役割を決め行っています。



18歳を過ぎた後の生活を意識し「やってもら側」から、「自分で気づいて動ける人」を目指しています。就労し自立して生活をしていく中で、掃除・片づけは必要不可欠になってきます。毎日生活をしていく中で、月に数回ではなく、日々の支援で継続させていきたいと考えました。どのような手順・方法で取り組みがいいのかなど、能率性を高められる支援をしていきたいと考えています。

《就労》《自立》学校卒業後の子ども達一人一人のことを考え、今、何が必要で、何をしていかなければいけないのか、職員一同課題とし、療育に繋げていきたいと考えています。